

令和3年度「サービス評価」総括表 小規模多機能型居宅介護初田郷富士見荘

法人名	社会福祉法人 薫風会	代表者	添野 眞一	法人・事業所の特徴	「あたりまえの暮らしを支援します」を施設理念に掲げ、今までの生活の中であたりまえに暮らしてきたことを大切にしています。行きたい所・やりたいこと・大切にしている習慣・親戚、友人、知人とのかかわり・地域とのつながり・健康管理（維持）などに心がけています。身体に何らかの障がいを負っても、年齢を重ねても、その人らしい生活を送ることで在宅生活の継続が出来るものと考えております。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 初田郷富士見荘	管理者	白幡 絵美		

出席者	市町村職員	知見を有する者	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	1人	2人	2人	1人	人	7人	人	15人

項目	前回(令和3年度)の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	御意見	今回(令和4年度)の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・自施設スタッフが自己評価で“あまりできていない”と感じている項目を会議や昼礼などで検討・考案にて改善を図り、知識・技術向上を目指す。	・事業所自己評価に関して、前回の自己評価よりも評価が下がっている項目が増えている。日頃の共有を行っていても次の日への引き継ぎが上手く出来ていないことも多かった。	・ケアプランに基づいて行っている支援なのに、どうして“マメな訪問支援が必要”と感じるのか？ ・「～したい」の実現も“あまり出来ていない”のチェックが多くなっており、支援の見直しが必要ではないか。	・まずは在宅生活を支えるに当たってケアプラン（問題点）や情報の把握と共有に努める。支援の中での気付きや変化に対して、毎日の昼礼等で共有、日誌や情報共有ツール（slack等）を用いての職員間の周知に努め、必要に応じてケアの見直しに繋げていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	・”コロナ過”と言う点で諦めるのではなく、しつらえや環境整備などその時に見合った内容を考案、実践していく。	・コロナ過と言う点が一番ではあるが、外部の方を招くことが困難な状況。コロナ過でも可能な範囲でご家族様をお招きしたり、推進会議の開催に繋げることは出来なかった。	・SUAMAカフェを一つのきっかけとして、地域交流スペースの有効活用（サロン等）を、コロナ過が落ち着いてきたら包括と一緒に検討して頂きたい。 ・百歳体操も是非、継続して頂きたい。	・ご家族様や地域の方をお招き出来ることを想定し、感染対策や環境整備を調べ、（コロナ過で中止していた）SUAMAカフェ等の再開も模索していき、地域の方に活用して頂けるよう努めていく。
C. 事業所と地域のかかわり	・昨年度に引き続き、新たな地域資源発掘や地域貢献を目指し、外部との連携窓口を活かし情報収集に尽力する。	・新たな地域資源発掘、連携を深めるの委員会を隔月開催。新たにファミリーマート様の訪問販売や散髪ボラの発掘に繋げることが出来た。	・地域と関わり合いをもつことは大切な一方で大変なこともあります。その中で、地域の相談事にも応じて下さり助かっています。今後は地域との連携が身近に出来るよう活動（SUAMAカフェや委員会）の継続をお願いします。	・現在は月2回のファミリーマート訪問販売等を地域の方にも開放する事で、地域の相談窓口として親しみやすい事業所となるよう地域の方との連携を図っていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・市や包括、地域の医療機関等との連携に努めて、より地域に馴染みのある（相談しやすい）事業所を目指す。	・地域の方からもご家族様の相談事が定期的にありました。コロナ過で医療機関等との連携が難しい場面も多々ありましたので、コロナ過でも受け入れる体制作りが必要。	・施設に何うと、いつも笑顔で出迎えてくれます。家族としても安心してお任せ出来ます。	・引き続き、市や包括、地域の医療機関等との連携に努めて、より地域に馴染みのある（相談しやすい）事業所を目指す。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・運営推進員の皆様からご意見や要望等を頂きながら、地域に還元できることは何か？を事業所としてだけでなく、地域住民の一員として検討していく。	・本年度も書面開催となってしまいました。なかなか対面での開催に結び付けられず残念な思いと、なんとか開催出来ないか？と葛藤がありました。	・（書面開催）資料で、分かりにくい部分は電話での質問に応じてくれていました。 ・コロナ過で大変ではありますが、初田郷運営推進会議を活動の充実に繋げられる様に今後も一緒に取り組んでいきましょう。	・感染予防に配慮をしながらとなりますが、運営推進会議の対面開催を目指す（開催場所や感染対策等の検討）。
F. 事業所の防災・災害対策	・引き続き、災害時の避難場所の役割として事業所内のみでなく、コロナ過での役割を担えるよう市や消防、自治会の方との連携を深めていく。	・コロナ過で消防署隊員の出動は困難ではあったが、電話連絡等で災害への不安な点などを相談し少しでも地域の避難場所としての役割が担えるよう心掛けていた。	・防災訓練は広報誌などで理解しております。今後は地域の参加型の訓練などを一緒に計画が出来るかと嬉しいです。	・引き続き、災害時の避難場所の役割として事業所内のみでなく、コロナ過での役割を担えるよう市や消防、自治会の方との連携を深めていく。 ※前年度から継続